008 1966年における中国核実験による放射性降下物の観測(2)

河合 広,本田嘉秀,森嶋弥重 古賀妙子,木村雄一郎,西脇 安*

Observations on the Radioactive Fallout originated from the Chinese Nuclear Explosions in 1966 (2)

By Hiroshi KAWAI, Yoshihide HONDA, Hiroshige MORISHIMA, Taeko KOGA, Yuichiro KIMURA and Yasushi NISHIWAKI*

We have observed properties of radioactive fallout originated from the third, the fourth and the fifth Chinese nuclear explosions in 1966. The differences in gross betaactivities, activities per unit volume and their particle sizes of highly radioactive particles are discussed with relation to the differences in burst conditions among the three explosions from which they originated.

It was found that radioactivities of the highly radioactive particles were roughly proportional to their volumes. The differences in the radioactive decay rates of highly radioactive fallout particles were found in connection with their colors. From the results of decay characteristics of gross beta-activities and γ -ray spectra of fallout samples, it was found that the contribution of radioactivities of ²³⁹Np in samples from the fifth Chinese explosion was larger than that from the third Chinese explosion.

In comparison between the γ -ray spectra of highly radioactive fallout particles from the third and the fifth Chinese explosions, the particles from the third Chinese explosion were enriched in 95Zr+95Nb and impoverished in 103Ru, while on the particles from the fifth Chinese explosion, the reverse of phenomenon above mentioned was observed.

1. 緒 言

中国は1964年10月16日に第1回核実験を行なっ てから1966年には5月9日,10月27日,12月28日 と第3回,第4回,第5回の核実験を行い,爆発材料 も熱核材料を含むようになるといった変化が指摘され たが当研究所でも前報¹¹に引続き落下塵埃,雨水およ び強放射能粒子などを採取して観測を行ったのでこれ らの結果を報告する。

2. 試料採取

試料の採取は前報¹⁾ と同様であるが強放射能粒子に ついては当研究所屋上に設置した 50×50 cm² のスリ ガラス板上に落下した粒子を主として採取した。粒子 は GM サーベィメータでその放射能を確認しながら セロテープに附着させ採取し更にスライドグラス上に 移して顕微鏡下で観察して単離した。

3. 結果と考察

3.1 落下塵埃の放射能の変動

1966年の第3回,第4回,第5回の中国核実験によ

* 東京工業大学原子炉工学研究所.

る落下塵埃の放射能の変動を Fig. 1 に示す。これに よると第3回と第5回の実験ではともに爆発後2日目 に放射能のピークが見られ,第3回ではその後,急激 に減少したが,第5回では爆発後20日以上にわたって 放射能レベルの上昇がみられた。これらに対して第4 回では著明なピークが見られなかった。このような落 下塵埃の放射能の変動の相違は爆発条件とともに爆発 後の気象条件によるものと思われる。



Elapsed time after explosion Fig. 1 Radioactivity of dry fallout (by gummed paper)

3.2 全 β 放射能の減衰

Fig. 2 および 3 に第3回, 第5回核実験による試





料の全β放射能の減衰を両対数グラフで表した。Fig. 2に示す第3回目の減衰は強放射能粒子,雨水とも爆



Fig. 3 Decay curves of fallout samples from the fifth Chinese explosion

発後約10日頃に屈曲点が見られる。その勾配は前半約 1.6,後半は約1.0になっている。これに対して Fig. 3に示す第5回目の核実験においては爆発後約7~8 日で屈曲点が見られ,勾配は前半約0.9,後半約1.4 ~2.5 と減衰は非常に早く半減期の比較的短い核種が 多く含まれていると考えられる。放射能粒子について その放射能が1/10²に減衰するのに要した日数をみる と第3回目は85日,第5回目は25日と減衰特性が大 きく相異している。そして Fig. 4 に示す西脇等²⁰の ビキニ水爆実験による放射性降下物の減衰解析からも 知られる様に²³⁹Npの影響の大きい F.P.の減衰曲 線と第5回目の減衰曲線が非常に相似していることか ら²³⁹Npの影響が大きいように思われる。このこと はさらに r 線スペクトルの分析結果からも確認され た。

3.3 r線スペクトル

- 46 -

3.3.1 第3回核実験による試料の ア線スペクトル Fig. 5 に落下塵埃,雨水,強放射能粒子の爆発後 4 日目のスペクトルを示す。これによるとこれら3種 類の試料についての ア線スペクトルのパターンには著 しい相違がみられなかった。また Fig. 6,7 に落下塵



- 47 -









Peak Energy (Mev)	Assumed nuclide	Energy (Mev)	Half life
0. 11	239Np 237U	0.106(50), 0.228(28), 0.278(31), 0.102, 0.208(24)	2.35 d. 6.75 d.
0. 13~0. 16	⁹⁹ Mo ¹⁴⁰ Ba+ ¹⁴⁰ La ¹⁴¹ Ce ¹⁴⁴ Ce	0.141, 0.181(35), 0.741(100) 0.161(4.5), 0.305(3.5), 0.436(4.5) 0.537(25), 0.815(25), 1.6(100) 0.142 0.134	66 h. 12. 8 d(140Ba) 40 h. (140La) 33. 1d . 285 d.
0. 20~0. 25	²³⁹ Np ²³⁷ U ¹³² Te+ ¹³² I	0.231(95) 0.67(100), 0.78(75), 0.96(20), 14(11)	77. 7 h. (¹³² Te) 2. 26 h. (¹³² I)
0. 29~0. 36	¹⁴³ Ce 131]	0.294(100), 0.668(32), 0.861, 1.1 0.365(82), 0.638(~9)	33.4h. 8.0d.
0. 63~0. 67	⁹⁷ Zr+ ⁹⁷ Nb ¹⁴³ Ce ¹³² Te+ ¹³² I	0.666(100)	17.0 h. (⁹⁷ Zr) 72.1 m. (⁹⁷ Nb)
0. 72~0. 75	99Mo 95Zr+95Nb 97Zr+97Nb	0. 722, 0. 754, 0. 768	65 d. (⁹⁵ Zr) 35 d. (⁹⁵ Nb)
1. 47~1. 63	¹⁴⁰ Ba+ ¹⁴⁰ La	0.815(25), 1.6(100)	40 h(¹⁴⁰ La)

Table 1 Nuclide assumed from γ -ray Spectra

3.3.2 第5回核実験による試料のγ線スペクトル Fig. 9 は 落下塵埃, 雨水, 強放射能粒子の爆発後 7日目のr線スペクトルであるが、縦軸は 95Zr+95Nb のフオトピークの高さを1とした任意目盛とした。こ れによると雨水と落下塵埃に比べて, 単離した強放射



Fig. 9 γ -ray spectra of fallout samples from the fifth Chinese explosion

能粒子は ²³⁹Np と ¹⁰³Ru の寄与が大きく, ¹⁴⁰Ba+ 140La の寄与が少いことが認められた。真室等(3) も落 下塵埃,雨水,等の微粒子の多い試料においては 140Ba +140La の寄与が強放射能粒子に比較して多いことを 報告している。

3.3.3 第3および第5回核実験による試料のγ線 スペクトルの比較

Fig. 10 は落下塵埃について爆発後12日目の γ 線ス ペクトルを縦軸に 95Zr+95Nb のフオトピークの高さ を1とした任意目盛をとり比較したものである。これ によると第3回核実験によるものは 103Ru に比して 95Zr+95Nb の占める割合が大きいのに対して, 第5 回核実験によるものはその関係が逆になっている。同 様の関係が Fig. 11 に示した強放射能粒子について の r 線スペクトルにおいても認められた。 このよう な相違は既に EDVERSON 等10 および真室等11 も

報告している様に爆発条件によるものと考えられる。



 γ -ray spectra of dry fallout Fig. 10

3.4 強放射能粒子について

Arbitrary intensity

3.4.1 大きさ, 色調, 放射能強度

中国が1966年に行った核実験後に採取した強放射 能粒子について観察した大きさ、色調、放射能強度な どの結果を Table 2, 3, 4 に示す。 粒子の形は真室 等4)5) がソ連核実験について報告しているようにすべ て球形かそれに近い形をしていた。落下数は3回目は 1m² 当り5~6ケ,4回目は3m² 当り1ケと非常に 少く, 5回目は1m² 当り約30ケであった。大きさも 各回大きく相違し, その平均直径はそれぞれ 15 µ, 6 μ, 25 μ であった。 中国第1回および一連のソ連の 実験では直径が20μよりも大きい粒子はわが国では報 告されていないようである。 真室等の によると直径 20 μ以上の粒子は重力落下に主として支配され局地降 下物となるが、直径 20 μ 以下の粒子は大気の運動に 支配され運ばれると説明されているが, 第5回核実験 による粒子について、われわれは直径約 30 µ 程度の ものを見出している。

これは地表面物質をより多く吸い込んでそれだけ比 重が軽くなったものと思われる。Crocker 等⁷)による と低空爆発の場合は直径 5~3,000µ, 高空爆発では直

径 2-20 µ 迄の大きさの粒子が見られると報告してい る。 また Edvarson 等¹⁰ は Fractionation の研究 結果から高空爆発で生じた放射能粒子は 95Zr+95Nb の放射能が大きく, 103Ru の放射能が小さいとしてい る。われわれが第5回核実験で得た粒子はこれらの報 告と考え合せて低空爆発で生じたものと考えられる。 photo 1~24 は中国核実験 3, 4, 5 回後に採取した 強放射能粒子の顕微鏡写真例である。拡大倍率が 7× 100 の油浸形で観察したものである。 顕微鏡下で眺め た強放射能粒子の色調は無色、黄金色、褐色、赤褐 色,黒色など様々であったが3回目は黄金色,4回目 は褐色〜黒色、5回目は褐色のものが多かった。5回 目の核実験後の粒子には photo 9, 10, 12, 14, 15, 16. 20, 22 の様にこぶの付着したものが多く又既に真 室等 6) 8) の報告に見られるような同一粒子内で色調の 変ったもの (photo, 9, 13, 16, 18, 19, 21, 22) 等も 見られた。強放射能粒子を顕微鏡下で針先で操作する 場合に粒子が分割されることがある。これは真室等5) によると近接したいくつかの粒子が針先の衝撃で分離 したものであるとしている。われわれも度々このよう な分割を経験したが photo 20 の様にはじめの球形の ものが 20~30 個の薄片に分かれる例もあることか ら, 粒子の中には意外に脆いものもあるのではないか と考えられる。粒子の直径と β 放射能の関係を[·]Fig. 12 に示す。比較のため勾配 3 の直線が描かれている

が略この直線上に分布している。 真室等⁴¹⁶⁹⁸が報告している様に放 射能は体積に比例している。5回目 の粒子の単位体積当りの放射能は第 3回目より凡そ2桁小さいことが分 るがこれはすでに記載したように第 5回目実験は3回目の実験よりも比 較的低空で爆発が行われその結果地 表面物質をより多く吸込んだためと 考えられる。

3.4.2 強放射能粒子の密度

第5回核実験の強放射能粒子の密 度を Fig. 13 の装置で測定した。粒 子を液体中で自然落下させることに より粒子の比重測定を試みた。液体 は 99.5% エチルアルコールを使用 し、粒子は顕微鏡観察のために用い たセーダー油を充分キシロール中で 洗った後,使用した。エチルアルコ ール中での粒子の落下時間は測定に



active fallout particles

Table 2

Chara	acter	istics	of	highly	radioactive	Particles
from	the	third	Cł	ninese e	explosion	

Paticle No.	Color	Size (µ)	Radioactivity 🔆 (mµCi)
1	yeallow brown	10×13	19. 5
2	11	12	15. 0
3			12. 7
4			28.7
5	yeallow brown	15×17	25, 8
6	dark brown	15×13	14. 9
7			19. 5
8	brown	15×10	9.1
9	11	12×10	6. 1
10	yeallow brown	17	20. 1
11	brown	20×15	22. 2
12	white yeallow	17	25.4
. 13	dark brown	15×13	9.0
14	· //	12	13.8
15		25	93. 8
		•	•

it 10 days after explosion №



photo 1 3rd exp. No. 4



photo 2 3rd exp. No. 5



photo 3 3rd exp. No. 10



photo 5 3rd exp. No. 14



photo 4 3rd exp. No. 11



photo 6 4th exp. No. 1



photo 7 4th exp. No. 3 photo 8 4th exp. No. 4



photo 9 5th exp. No. 2



photo 11 5th exp. No. 4



photo 10 5th exp. No. 3



photo 12 5th exp. No. 8



photo 13 5th exp. No. 9



photo 15 5th exp. No. 12



photo 17 5th exp. No. 23



photo 14 5th exp. No. 10



photo 16 5th exp. No. 16



photo 18 5th exp. No. 27



photo 19 5th exp. No. 27



photo 21 5th exp. No. 44



photo 20 5th exp. No. 29



photo 22 5th exp. No. 45



photo 23 5th exp. No. 58



photo 24 5th exp. No. K-3

			-
Particle No.	Color	Size (µ)	Radioactivity 💥 (m µCi)
1	brown	7	0. 58
2			0. 63
3	dark brown	5 imes 7	0. 42
4		7	0.83
5	·		0. 55
	<u> </u>		

Table 3 Characteristics of highly radioactive particles from the fourth Chinese explosion

成功したもの5~7回の平均値をとった。10個の 粒子について密度を測定し4.1~5.9g/cm³の値 を得た。これは真室等⁹⁰の第3回中国核実験によ る粒子についての報告値が5.1~6.3g/cm³であ



Fig. 12 Diameter and β -activity of highly radioactive fallout particle



Fig. 13 Arrangement for measurement of density of highly radioactive fallout particle

Table 5Fractionation factors measured on highly radioactive fallout particles
from the Chinese explosion

the third Chinese explosion					the fifth Chinese explosion						
Sample	131 I	¹⁰³ Ru	132]	140 140 Ba+La	day after explosion	Sample	131]	103Ru	132]	140 140 Ba+La	day after explosion
air-borne dust		0.19	0			air-borne dust		1.13	0.52		1
highly radioac- tive fallout particle (1)	-	0.16	0	-	12	highly radioac- tive follout particle (7)	-	3. 82	0. 86		12
						(8)	0.97	0.11	-	0,08	
						(9)	2.67	0.16		0.14	
	ĺ	ĺ	[(10)	5.22	4.20		0.08	
air-borne dust	0	0.04	-	0.02		air-borne dust	0.12	1.52	_	0.19	
highly radioac- tive fallout particle (2)	_	0. 53	-	_	38						38
(3)	-	0.56									
(4)	-	0.63				•		1			}
highly radioac- tive fallout particle (5)		1.08	_		42	highly radioac- tive fallout particle (11)	-	4. 39		_	50

るのと比較して一般に小さいことが分る。粒子の密度 と放射能の関係を両対数グラフで Fig. 14 に示したが 体積と放射能の間にみられたような相関は認められな かった。

3.4.3 強放射能粒子の減衰特性

第5回核実験後に採取した強放射能粒子についてそ の色調別で放射能の減衰を観察してみた。Fig. 15 に その結果を両対数グラフで示した。これによると強放 射能粒子の中で無色,黄金色,薄茶色等の比較的うす い色の粒子についてはその減衰曲線は大体 1.6~2.4 の勾配を,色の濃い褐色,黒色等の粒子はやや勾配が 小さく 1.0~1.3 であった。このことからうすい色の 粒子は濃い色の粒子に比べて半減期の短い核種が多い のではないかと考えられる。

3.4.4 強放射能粒子の γ線スペクトル

Fig. 5, Fig. 8, Fig. 9, Fig. 11 に第3回および 第5回核実験による強放射能粒子のr線スペクトルを 示しているがすでに3.3で記載したようにそれぞれ爆 発条件の相違によるr線スペクトルの特徴が認められ た。

3.4.5 強放射能粒子における放射化学的分画

放射性降下物についてその radiochemical fractionation の程度を表わすのに Edvarson 等¹⁰ は次 式に示すfractionation factor (f)を用いた。

$$f = \left(\frac{N(A)}{N(^{95}Zr + ^{95}Nb)}\right)_{exp.} \times \left(\frac{N(^{95}Zr + ^{95}Nb)}{N(A)}\right)_{theo}$$
N(A): 核種Aの放射能

N(95Zr+95Nb): 95Zr+95Nbの放射能 exp. theo:括弧内の値が実験および理論的 に求めた値

われわれもこれに従って第3回および第5回核実験 の試料について fractionation factor (f) を計算し てみた。Table 5にその結果を示す。既に Edvarson 等¹⁰ も指摘しているように 強放射能粒子の 形成が高 空爆発であるほど Mass-chain 103, 131 などの核種 が強放射能粒子中で少くなるが、Table 5の結果から 第3回核実験の方が第5回核実験よりもより高空で爆 発が行われたものといえる。

3.4.6 強放射能粒子の β線による局所被曝線量

単離した強放射能粒子について Al 吸収板による最 大飛程の測定からその β 線の平均エネルギー E(Mev) を推定し、その放射能が A(μ Ci)で、時間 t (day) に 対して -1.6 のべき指数をもって放射能が減衰する ような強放射能粒子1 個が皮膚表面に附着したと仮定







active fallout particle

- 52 -

Particle No.	Color	Size (µ)	Radioactivity (mµCi) 🔆	Particle No.	Color	Size (μ)	Radioactivity (mµCi)
1	brown	28	1. 149	35	golden	30	1.024
2	black	23	0. 930	36	reddish black	27	1.026
3	brown	28	1,255	37	golden	10	0. 169
4	black	28	1.074	38	brown	22	0. 374
5	reddish brown	27	1.693	39	black	27	0. 910
6	dark brown	12	0. 283	40	brown	27	1.301
7	reddish brown	23	0.496	41	light brown	27	0. 568
8	golden	29	1.482	42	golden	30	1.000
9	dark brown	29	1.488	43	light brown	27×37	0. 914
10	brown	27	1.680	44	brown	30	1.461
11	golden	28	2.053	45	light brown	27	1.065
12	reddish brown	28	1.981	46	dark brown	30	1.280
13	light brown	20	0. 253	47	colorless	20×23	0. 345
14	black	26	1. 921	48	brown	20	0.406
15	brown	23	0. 665	49	dark brown	28	0. 894
16	//	26	0.973	50	golden	28	0. 797
17	//	23	0.760	51	brown	30	1.485
18	//	30	1.082	52	reddish brown	27	0. 937
19	11	30	1. 387	53	brown	.27	0.856
20	golden	22	0. 441	54	reddish brown	17 .	0.217
21	light brown	13	0.400	55	brown	17	0. 189
22	brown	17	0. 245	56	light brown	23	0. 597
23	11	24	1.252	57	brown	28	0.972
24	black	27	1.953	58 ·	light brown	28	1. 322
25	brown	23	0. 395	59	brown	30	1. 172
26	golden	27	1.818	60	//	23	1.262
27	brown	29	1.406	61	dark brown	23	0. 725
28	black	10×17	0. 123				
29	11	26	1.052	K-1	brown	. 27	0. 600
30	brown	28	0. 918	К-2	colorless	23	0. 729
31	reddish black	27	1.458	K-3	light golden	17	0. 224
32	brown	23	0.798	K-4	brown	23	0. 337
33	golden	23	0.846	K-5	golden	25	3. 056
34	dark brown	22	0. 447		<i>i</i>		

 Table 4
 Characteristics of highly radioactive particles from the fifth Chinese explosion

No. $1 \sim 61$ Kinki University

K-1~5 Kawasaki, Kanagawa Pref.

して β線の飛程 r(cm) を半径とする球状体積の組織 がうける局所被曝線量は次の数式で計算することがで きる。

$$D(rad) = \frac{A \times E \times 1.6 \times 10^{-6} \times 2.22 \times 10^{6} \times 1440}{\frac{4}{3} \pi r^{3} \times 100}$$
$$\int_{t_{I}}^{t_{2}} t^{-1.6} dt$$
A:放射能粒子の放射能(μ Ci)

- E:放射能粒子1個当りのβ線の平均エネル ギー(Mev)であるが,簡単のため上式で は吸収エネルギーも E(Mev)とした。
- r : 照射される半径 (cm)

組織の比重は1とした。

第3回核実験による粒子について爆発後1日目の放 射能を 0.65 μCi, その β 線の平均エネルギーを 0.3 Mev として爆発後2日目に粒子が皮膚表面に付着し そのまま24時間付着していたとすると上記の計算式か らその付着局所の皮膚は約1,300 rad 程度の被曝が考 えられる。

4. むすび

1966年に行われた中国第3回,第4回,第5回核実 験による放射性降下物について落下塵埃の放射能の変 動,全β放射能の減衰特性, r線スペクトルなどの諸 特性とともにさらに単離した強放射能粒子について (1)大きさ,色調,放射能強度,(2)密度,(3)放射能減 衰特性,(4)r線スペクトル,(5)放射化学的分画,な どの諸特性を主として爆発条件との関連において考察 した。また強放射能粒子が皮膚表面に付着した場合の 局所被曝線量についても考察した。

文 献

- 河合広,本田嘉秀,森嶋弥重,古賀妙子,木村雄一 郎,西脇安:近畿大学原子力研究所年報,4,15, (1966)
- Y. NISHIWAKI : Annual report of Nuclear Reactor Laboratory Kinki University, 1, 88 (1961)

- 3) 真室哲雄,吉川和子,藤田晃,松並忠男:日本原 子力学会誌,8,5,242,(1966)
- 4) 真室哲雄,吉川和子,藤田晃,松並忠男:日本原
 子力学会誌,4,11,766,(1962)
- 5) 真室哲雄,吉川和子,藤田晃,松並忠男:日本原 子力学会誌,**4**,12,860 (1962)
- 6) 真室哲雄,吉川和子,藤田晃,松並忠男:日本原 子力学会誌,7,9,485 (1965)
- 7) G. R. CROCKER et al. : Health Phys., 12, 1099 (1966)
- 8) T. MAMURO, K. YOSHIKAWA et al. : Nature, Lond., 196, 529 (1962)
- 9)真室哲雄,吉川和子,藤田晃,松並忠男:第8回 放射能調査研究成果発表会(1966.11)
- K. EDVARSON, K. LOEW and J. SIOEFSKY : Nature Lond., 184, 1771 (1959)
- T. MAMURO, K. YOSHIKAWA,
 T. MATUNAMI and A. FUJITA : Health Phys. 12, 757 (1966)

			正	具		表	·
頁	行	誤	Ē	頁	行	誤	Æ
9	左 4	調	滑	50	左14	20	2 1
"	右 5	熊	態	50	Table 2	Particles	partic les
11	左 11	"	"	"	写真	photo 18 5th	photo 18.5th
"	左13	"	"	"	"	exp. No. 27	exp. No.26
"	左14	"	"	53	Table 4	No 3. 1,255	1.255
"	左16	"	"	54	文献 1)	4,15,(1966)	4,5,39,(1965,6)
"	左17	"	"		文献10)	Nature Lond.,	Nature, Lond.,
"	右 9	"	"	96	四,	保安規定改良後	保安規定改正後
"	右 15	"	"	97	8	沈泥	沈泥,
"	右 16	"	"	108 ·	第15表	乾燥土	乾燥沈泥
"	右 18	"	"	113	右 9	これの	chbo
"	右19.	"	"	117	Fig 1	platinumn	platinum
12	左 1	"	· //	118	左19	(4)	(2)
"	左 2	"		119	左 2	5.0∇,とした	5.0 v とした
42	Fig10-1	7 daye	7 days	- 11	左 5	LT	L
43	右13	原子力研究学所	原子力研究所	"	Fig 4	G M counting	β counting
47	Fig 6-1	⁹⁷ Zr + ⁹⁷ ND	$9^{7}Zr + 9^{7}Nb$	121	左 5	電解開始圧	電解開始電圧
		143 Ce	¹⁴³ C0	"	左 7	pH 7.0	7.0
		13 ¹ 2 I	132I	"	Table 5	R ecovery	Recovery (%)
"		132	132 I	"	Fig 16	U raniu m	Uranium in sol-
48	Table 1 中の12	14	1.4				ution
49	Fig 9	Ru	^{10 3} Ru	122	左 1	蓚酸アンモニウ溶液	蓚酸アンモニウム溶液
"	"	o M ^{ee}	o M ^{e e}	"	右 2)	1149	1149-
		⁹⁵ Zr + ⁹⁵ ND	⁹⁵ Zr + ⁹⁵ Nb	"	/// 4)	project	Project